

スーパー耐久シリーズ 2026 第 2 戦鈴鹿 95 号車 SPOON リジカラ CIVIC はパーフェクトウィンで2連勝



4 月 18 日(土)~19 日(日)、三重県の鈴鹿サーキット(5.807km)でENEOSスーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第 2 戦 SUZUKA5 時間レースが 1 万 7,000 人の観客の前で開催され、95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」(小松一臣/小出峻/三井優介)は、予選からサクセスウェイト 20kg を搭載する中で ST-2 クラスポールポジションを獲得。決勝レースも小出、三井、小松、小出とつなぎ、一度も首位を譲ることもなく、2 位に 53 秒の大差をつけるパーフェクトウィンで開幕2連勝を飾りました。

昨年の鈴鹿は ST-2 クラスがスキップされていたため、チームとしては 2024 年の第 5 戦以来 1 年半ぶりの鈴鹿でのレースとなります。18 日の公式予選は気温 23 度、路面温度 39 度と初夏のようなコンディションの中、予定とおり 14 時から開始されました。A/B ドライバーの合算ラップタイムによってポジションが決まる予選方式で、A 小松が 2 番手タイム、B 小出はトップタイムをマークしてチーム SPOON として初のポールポジションを獲得しました。

19 日の決勝レースは 12 時にスタート。天候は、薄曇りで気温 23 度、路面温度 48 度とこの時期としては路面温度がやや高いものの絶好のレースコンディション。スタートドライバーの小出は、しっかりとトップポジションをキープして周回し、2 位の 743 号車とは約 2 秒の差を保って 34 周目にピットイン。給油とフロントタイヤのみを交換し首位を保ったままピットアウトしています。2 番手の三井は、2 位との差を 10 秒以上に広げる果敢な走りを見せて 70 周目にピットインし、給油とフロントタイヤの交換を済ませて小松がピットアウト。チームの素早いピットワークもあり、2 位との差を約 30 秒まで広げました。小松も冷静にその差をキープしつつ、決勝でのチームベストラップを刻む速さを披露して 103 周目に 3 回目のピットに入り、給油とフロントタイヤ交換を済ませて、再び小出のドライブでピットアウトしました。ここで 2 番手を走行していた 743 号車がトラブルで後退したため、代わって 2 位となった 13 号車とのギャップは 1 分 16 秒まで広がりました。しかし、小出はその後もペースを緩めることなく、ステイディなドライビングを見せてそのままトップチェッカー。ポールポジションからのスタートで一度も首位を譲ることのないパーフェクトウィンで開幕2連勝を飾りました。

原剛チーム監督コメント

「優勝は出来ましたが、レース自体は結構ギリギリの状況で臨んだので薄氷の思いでした。昨年の鈴鹿のデータが無いので、木曜日からの走行で小出と三井がラップタイムと燃費のデータやタイヤライフをしっかりと出してくれたのが大きかったですね。燃費的には FCY に助けられたという面もありますが、ドライバー全員が想定以上の走りを見せてくれたのが最大の勝因ですね。特に小松のステイメント時に発生した振動は、経験豊富な小松ならではの冷静な対処によって事なきを得たのも素晴らしかったです。次戦の富士 24 時間に向けて気を引き締めながら、謙虚な姿勢で望みます」

小出峻コメント

「今週はマシンの調子もずっとよく、チームの雰囲気も引き締まった感じがあって最高でした。課題の洗い出しからその対処まで完璧でしたから。ファーストステイメントとラストステイメントともにマシンの状態に問題は有りませんでした。特にラス

トステイントは小松さんからバイブレーションが発生する現象とその対処方法を聞いたので、安心して踏んでいけました。タイヤもリアタイヤは無交換で行けるというデータもあり、優勝に向けてプッシュしました。この優勝は本当にチームのおかげだと思います。この勢いを次戦の富士でも発揮していきたいですね」

三井優介コメント

「チームもマシンもずっと調子がとても良かったですね。もてぎではピットの際に小さなミスがあったりしたのですが、今回はパーフェクトでした。小出さんからバトンを受けた際、交換したフロントタイヤの状態はかなりヤバイと聞いたので、タイヤライフを意識して走りました。燃費も余裕がないので、集中力を切らさずラップを刻みましたが、2位とのギャップを少し広げて小松さんにつなげる事ができたのでたので良かったです。SF ライツでもよいスタートが切れたので、ダブルタイトルを狙うつもりで行きますよ」

小松一臣コメント

「2 戦目でヤングドライバーの二人と遜色ないタイムを刻めたので、合格点かな。FF 車はレースキャリアをスタートした5年間ほどで、後は20年ほどずっとFR車だったのでシビックを乗りこなすにはもっと時間が掛かると思っていたのですが、小出さんと三井さんからアドバイスというか、基本のキから細かい部分までしっかり教えてもらったので、足を引っ張る事なく走れています。経験だけは有るのでそれを生かしながらチームに貢献できたらいいなと思っています」

第3戦は6月5日～7日に富士スピードウェイで24時間レースとして開催されます。